

稻熱病と石灰窒素

(一)

農學士 鄭 耀 西

一、緒言

澎湖の土地は全部で幾何あるかと云ふと、平地や草地等を合せて約三七一萬甲歩ある。其中耕地に使用せられてゐるのは約八六萬甲歩即ち約四分の一に當るもので、其の利用方面即ち、作物別作付面積から云ふと、一七萬甲歩と云ふが如き莫大な面積になつてゐる。更に米の作付面積を見ると約七〇萬甲歩あつて、全作付面積の半分以上を占めてゐる。

斯う云ふ様に本島の土地は米の栽培の爲めに出来てゐる様なもので、試みに一度郊外田舎に歩を運ぶ時周囲一面に青々と茂つた稻の生育が至る處に見受けられるであらう。次に本島の産米方面から之を見るに、農業工業、林業、蠶業、水産業等の年産額は全部で六八、〇九八萬圓即ち昭和は年に六億八千萬圓からの産物を出してゐるが、此中の約五割三分は農産の産額で實に三億六千萬圓と云ふ莫大な金額に上つてゐる。然るに米は年に一九、七二九萬圓の産額があるので農産上第一位を占めてゐるばかりでなく、全島産米の最も重要な部門の位置にある譯である。斯う云ふ様に見て来た時澎湖は米の國なりと云つても強ち過言ではなからう。所が肝心な此の米殊に蓬萊米は決つたに於ては稻熱病と云ふ恐ろしい病氣に罹るので農民の經濟状態は勿論の事、本島の産米に一大打撃を與へてゐる。

次に稻熱病と密接な關係を持つてゐる肥料に就て

見るに本島に、於ては約五千萬圓の肥料を年々用ひてゐる。一口に五千萬圓と云へば夫迄であるが、農を本とする本島の農民の經濟状態を調査して見ると、肥料費は丁度農民の現金支出の四割七分を占めてゐるから實に馬鹿に出来ぬ。更に施肥如何によつては我が農業延ては島内産業に及ぼす影響が甚大なものである。肥料の中でも農林省が我が澎湖總督府當局を初め其他の各農事關係方面の獎勵してゐる唯一の販賣肥料(命肥)である石灰窒素は、逐年増加の一歩道を辿つて内地は勿論の事本島に於ても重要視せらるゝに至り、昭和十一年、二年度の我が國に於ける消費高は僅に二十三萬噸を突破するに至つた。又本島の最初の窒素工業として澎湖電化株式會社は本年の三月に石灰窒素を製出したので、本島に於ける地位は益々重大なものになつた。

然るに遺憾な事には、獨り我が、農産のみならず又島内産業に取つて最も重要な此の稻熱病と石灰窒素とに關し一般農民の認識は尙至つて淺い。稻熱病は依然として水稻作の上を濶歩横行して止む所を知らぬ。石灰窒素は本島に於ては既に四、〇〇〇噸を突破したとは云ふものゝ、甚だしものになると其の名稱さへ知らない者も未だある様である。

二、稻熱病とは何か

春四月頃胚芽を通る時先づ眼に映するものは、青墨を敷いた様になるべき水稻が不愉快に茶褐色に色彩ら

れてゐる事である。又六月を半ば過ぎた牧草期頃には詩人等の口によく上る黄金色の穂が此は又なんど白茶色に汚れてゐるではないか。若しも此が蓬萊種の水稲に見出されたとすれば、殆ど例外なく稻熱病と云つて差支ない。前者を我々は葉イモチ、後者を穂イモチと稱してゐるが、勿論此の病氣は獨り蓬萊種のみならず、在來種の水稲にも陸稻にもある譯である。唯だ在來種や陸稻等の場合は蓬萊種程罹る率が多くなつて又被害も左程大きくないだけである。此の稻熱病に對する本島在來の名稱を示すと滑吊、吊狗、火燒炎、乾莖、白穂吊等があるが、普通我々は其の發生の部分によつて苗イモチ、葉イモチ、穂首イモチ、穀イモチ等に區別して呼稱してゐる。

稻熱病(イモチ病)とは此等の總稱で稻熱病原菌と云ふ一種の糸狀菌(一種のカビ)が稻の體内に侵入して繁殖する時に稻の罹る病氣で、云はゞカビが稻に寄生した時に起るものである。此の菌は、南糸、擔子梗及び分生胞子の三部分に分けられ、高等植物の様に根、莖、葉と嚴然と區別してゐない。之を強ひて高等植物と比較するならば、南糸は根、莖、葉及び葉等の働きを爲し、擔子梗は花梗に當り、分生胞子に相當するものである。南糸は稻の組織内にあつて節が幾つもあり、又澤山の枝を出す。擔子梗は稻の體外にあつて、南糸から多數叢生し、二、三の節を持つて、普通は枝を出さない。分生胞子は擔子梗の先端又は先端近くは無性的に幾つもの胞子の頭から更に胞子と云ふ風に一列に長く作られる洋梨形のもので二つの横隔を持つてゐる。色は南糸は無色乃至灰色、擔子梗は灰色、分生胞子は無色であるから、稻熱病菌が多數叢生してゐる處は外剛上灰色を呈してゐる。大さは微生物に屬するものであるから非常に小さくて肉眼で見える事が出来ない。大陸南糸の太さは約三・三ミクロン、擔子梗の太さは約五ミクロン、長さは約一〇〇ミクロン、分生胞

子の太さは約九ミクロン、長さ約二七ミクロンである。一極の十分の一が一耗で其の更に一千分の一が一ミクロンであるから、どんなに小さいかと云ふ事が分るのである。

次に其の性質を少し見て行かう。稻の組織内に侵入してゐる菌糸は稻熱病原菌の本體を爲すもので、胞子の力を借りなくても立派に越冬繁殖する事が出来る。高温及び乾燥に對しては甚だ抵抗力が強く、二年乃至五年間其儘生存してゐる事が出来る厄介物である。然し反對に低温、濕潤に對しては弱く、普通水田の泥中に於ては約十日間で胞子を形成しなくなり遂に死んで了ふから之又甚だ好都合である。孢子梗は胞子を形成する爲めに出来てゐる花穂に相當するもので、孢子梗が、出来ると共に四時間後には既に胞子を作つてゐると云ふ状態で、胞子が作られないと死んで了ふ。次に稻熱病原菌の繁殖を妨めてゐる分生胞子はどんなものかと云ふと、此は菌糸と正反對の性質を有し、熱と光に對して抵抗力が弱く、低温に對しては強い。普通種に對しては抵抗するものは半箇年以上生存する事が出来る。

一つの分生胞子は三つの細胞から出来て、水分に會ふと先づ兩端の何れかの細胞から糸の様な芽を出し菌糸となる。菌糸は更に菌糸として繁殖する他に、又孢子梗を作り更に胞子を形成する。此の胞子は非常に軽いもので、弱風でさへも七八町の先迄運ばれ、稻の上に着ると一時間乃至一時間半程たずして發芽する。稻が之に侵されると前述の様に稻ならざる稻の色を呈し、生育は著しく害せられ、結實も不完全で、收量は非常に減るばかりでなく時には殆ど全滅になる事もある。此處で注意しなければならぬのは、稻熱病に罹つた稻の收穫物即ち籾は被害が單に減收に止まるばかりではなく、品質が著しく低下懸化せられる。そして罹病した籾を種子として次作に用ひると又稻熱病の發生を見る譯である。斯う云ふ様に此の微生物は甚だ厄介であるから、出来るだけ水稲に斯う云ふカビが生

えない様に務めなければならない。

三、稻熱病發生の原因

どう云ふ譯で稻熱病は發生するか。勿論其の病原菌が居るから發生するもので一向不思議な所はない。從て其の病原菌を完全に、撲滅し得たら一つも罹る心配は要らない。病原菌が稻に寄生する途は一體何處に居るか云ふと、カビの事であるから空中と云はず、圃場、家屋、粟の中籾等至る處に彼等は假りの住家を作つてゐる。そして稻を植える頃ともなれば、時期はよして侵入して来るから實にかなはない。此の雨の媒介物の主なるものは空氣、水、籾及粟の四つである。一坪當り一時間に空氣によつてどれ位運ばれるかと云ふと時と場所によつて違ふが、大體水稲の發熟期頃は約四千粒、收穫終了の頃は約三百粒の胞子が微風に送られて處かまはずに落ちて来る。灌溉水も亦よく胞子を運せてやつて来る。又前期作に稻熱病に罹つた水稲の籾と粟は其中に菌糸及び胞子を必ず含むもので、媒介物の中で最も重要なものである。

斯うして運ばれて来た菌を受けた水稲が災難である。然し斯う云ふ水稲が皆が皆稻熱病に罹るとは決つてゐないで、若しも菌の發生條件が悪い時は、其儘、菌は枯死するか又は全然作用する力を持たない状態となつて、水稲は完全な發育を遂げる事が出来る。反對に

◇ 東京 便り ◇

本年八、九月の交、内地中米との開き六圓に迄擴大した蓬萊米が今では約二圓に迄縮まつた。人間萬事塞翁の馬……待てば無路の日和あり……と其のよはは獨

發生條件がよいと、菌は至る處にあるから前途には稻熱病の被害が待ち受けてゐる譯である。先づ發生條件を便宜上左に箇條書で示して見よう。

- (1) 水稲の品種。栽培する品質が軟弱である時はよく罹る。例へば蓬萊種で云ふと家中六五號は甚だ抵抗力が弱い。
 - (2) 栽培法。栽培せられた水稲の株間が非常に狭く、且つ一株の本數が多い時は植物體は軟弱になるから罹り易い。
 - (3) 灌溉水。非常に汚い水を灌溉したり、灌溉水が不足したり、又は落水が早過ぎたりするといけない。
 - (4) 緑肥。南部でよく田菁と云ふ緑肥を栽培し、之を土中に鋤込んだ翌日に直ぐ水稲を植付けるのを見るが、勿論悪い。
 - (5) 通風。通風が悪い時は大抵稻熱病の發生を見る。
 - (6) 天候。水稲の生育期間殊に分蘗期になつて、氣温が高くて連日雨が降り、太陽が顔を出したかと思ふと直ぐ晴雲に邪魔されると云ふ様な時、反對に水稲を挿秧する前に太陽はカン／＼照つて天氣が續き、氣温が又高いと云ふ様な時は注意を要する。
 - (7) 施肥。合理的施肥を爲さないで窒素單用に偏する時は植物體が軟弱でいけない。
- 此の外に又色々あるが、此位にして次は、此の除防法を述べて見よう。

作 田 隆

り筆のみではあるまい、一時在荷四、十五萬袋に達した、蓬萊米も十一月九日現在では二萬六千袋米に減少した。之れは産地高と船腹不足の關係であつて思ふ様

稻熱病と石灰窒素

農學士 鄭 耀 西

四、稻熱病の除防法

天候が悪いから稻熱病が発生するのだと普通は云つてゐる。前述の通り此は確に間違つてゐないが、然し夫だからと断念するには及ばない。又稻熱病に罹つてから、それポルド液を撒けとか、それ加里を撒布せよとかは、盗人を見て細をなふる様なもので、假令効果があつても知れたもので、其上經費は馬鹿に重つて来る。大體稻熱病は今に切つた問題ではなく、毎年第一期作は丁度悪い天候になつてゐるから、毎年必ず多少なりとも稻熱病がある。人間が肺病になつてから薬を飲んだつて仕様がな。そよりも肺病に罹らない様に初めから健康體にし且衛生等をよくして置く方が賢明ではなからうか。況や毎年必ず発生する稻熱病に就ても豫め其の對應策を講すべきである。

之には前述の發生條件を無くす様にすればよい譯である。即ち水稻の品種は出来るだけ強健なものを選ぶ様にする。然し此は農民の手で新品種を育成する事は困難であるから、關係農事指導者とよく相談する事である。栽培法は密植を止して粗植にし一株の本数を在来よりも一、二本減らし置く、灌溉水と通風は出来るだけよくし、常にテヨロ／＼と流れ常にソ／＼と吹く様に圃場の周囲の状況を改良する。緑肥は鋤込んでから植付迄に少くとも二週間位の期間を設けて置く但し鋤込む前に基肥として石灰窒素を撒布して置くは一週間の短期間でも安心して挿秧してよい、否此の方が養分上徹底してゐる。施肥は合理的にして、差肥は石

炭素十九%、過燐酸石灰及び硫酸加里を用ひ、追肥は硫酸十九%、過燐酸石灰及び硫酸加里の混合物を第一回播種の時迄に施肥して、植付五十日以後は絕對に肥料をしない様にする。斯うして置けば安心してよいが假令稻熱病に罹つても直ぐ回復するか、又は被害が輕微に止まる。然し此丈では未だ徹底してゐない。前述の如く、稻熱病原菌に至る處に集積するものであるが、穀と穀に附着してゐる外のもは數日を出ずして枯死するか又は繁殖力を失つて了ふ。従て媒介物としては穀と穀が最も重要な役目を務めてゐるから、此等に附着してゐる菌を撲滅する事を工夫しなければならぬ。

先づ種穀に附着してゐる菌を撲滅する方法として、色々の發表があるが、澤田兼吉氏によると次の様にした方が最も簡單で効果的ださうである。即ち種穀を普通の水道水に七時間浸漬した後、底に三、四升位の程度に少量入れて播氏四九度に種穀が温まる程度に少時間浸漬し、直ちに夫を播氏五四、三度に正確に五十分浸漬して取上げ水道水をかけて冷却せしめればよい。勿論稻熱病にかゝつた水稻の穀を種穀として絕對に使用しない様にする事である。出来得れば菌の附着してゐないものを種穀として使へば最も無難である。

次に穀であるが、之を庭に堆積してゐるのをよく見受けるが如何にも稻熱病原菌の爲めに家を建て、やつた様なものであるから、先づ此の消毒を考へなければならぬ。燃料として焼けば文句はないが、然し此は實に勿論ない話である。圃場は常に有機物の補給を絶對

條件としてゐる事は周知の通りであるから、之を堆肥製造の原料に用ふれば一舉兩得、一石二鳥である。所が普通農家で糞を家畜等に踏まして造る様な堆肥は、此の消毒も不完全だし、又堆肥の質も非常に悪い。斯う云ふ時は約二、三%の割合に石灰窒素をよく混和せしめて置けば稻熱病原菌が完全に撲滅せられるばかりでなく、農林省等で折紙をつけてゐる所謂石灰窒素堆肥と云ふ様な優良速成堆肥が出来上る。所が刈取つた残りの稻穂に附着してゐる菌と水田の上に落下した菌はどうなるかと云ふ疑問が生ずるが此は前述の通り水稲播種前に鋤込んで置くのであるから、大抵は十數日間で枯死する。然し鋤込む前に我々は基肥として石灰窒素を施用してゐるから、石灰窒素の力で完全に撲滅が図られる譯である。

以上農民が容易に行はれ得る方法を要約すると、(一)穀を全部焚らず石灰窒素堆肥の製造に振充て(二)種穀を澤田式に消毒し、(三)植付株間を大きく一株の本数を少くし、(四)基肥として必ず石灰窒素を用ひ之に適量の燐酸と加里を併用し、(五)灌溉水と通風は常にテヨロ／＼ソ／＼となる様にすれば、稻熱病原菌何ものぞである。

以上よく石灰窒素が出て来るが、然らば石灰窒素とはどう云ふものか、以下石灰窒素一般を紹介して見よう。

五、石灰窒素の性状

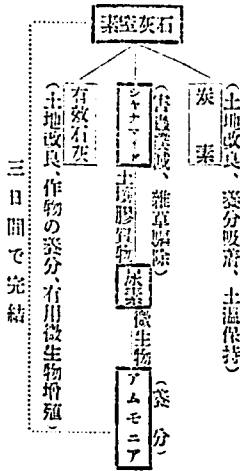
石灰窒素は黒黒な粉末で勿論肥料である。セメント見たいな紙袋に正味六貫即三十七斤半又は二十二斤半入つてゐるからセメント位の大さになつてゐる。即ち縦は約一尺三寸位である。紙袋と云つてもセメントの夫とは大に趣きを異にし、五重のクラフト紙袋から出来てゐるが内側から二枚目のものには特に外氣と乾燥する様にアスファルトをサンドイッチした所謂ターボ

リン紙を用ひてゐる。本島で使用してゐるものは全部ミンシをばはないで、吹込式と云つて口の處は矢張りターボリン紙を用ひて封入してゐるから耳とか其他不要の出張つた所とか角とか云ふ様なものがない。

石灰窒素は大豆粕や硫酸等と同じ様に葉を肥やす肥料即ち窒素を主成分とする肥料で、普通は窒素は二〇%を保証してゐる。其の成分から計算すると石灰窒素一袋は大豆粕二枚半に相當してゐるから、二枚半の大豆粕の代りに一袋の石灰窒素を使へばよい譯である。石灰窒素は有りと凡ゆる窒素質肥料の中で最も安いと云ふ事が注眼點であるが其他其の副成分が他肥料の様に酸類等無益有害なものからなつてゐないで、全窒素が約二〇%有効石灰が約六〇%を含有してゐる等の特長がある。

石灰窒素其のものは、どちらかと云ふと植生に有害であるから、水稻の植付後に撒くと水稻が死んで了ふ所が水稻が未だ植えてゐない前に石灰窒素を施肥し、表土とよく混和する様に鋤込んで置けば、三日間程たずにアムモニア乃至硝酸に分解して肥料としての著效を示すから、石灰窒素施用後は必ず三日以上の期間を置いてから挿秧しなければならぬ。然るに甚だ好都合な事には石灰窒素は凡ゆる窒素質肥料の中で最も流失性が少ないから、結局一箇月や二箇月の期間を置いても至支へなく、普通は農耕等の都合上で動き起す前に撒布して置けばよい譯である。石灰窒素が肥料としての著效を示す迄には三日間を要すると云つたが、此の期間中にどんな作用をするかと云ふと此は苟しくも石灰窒素を知つてゐるものは全部知つて居られる通り、土壌中の害蟲、マラリヤ病原菌や蚊、白蟻、それから雑草等を撲滅する、其他に石灰窒素はどんな性質を持つてゐるかと云ふと、既に周知せられた賦性を加へる様なものであるが、よまを簡単に云ふと、土壌の理化學的性質をよくしたり從來用ひてゐた化學肥料の悪い作用

を喰ひ止めたり、田畑にある捨棄、植物の莖葉、刈株等を腐熟せしめたり等をする。所が肝腎の肥料としての効果即ち肥效が悪ければ何ものならない。本島に於て試験した結果を總平均して見ると、水稻作等に對しては大豆粕よりも一、二割程肥效が高く、畑作に於ては慣用肥料よりも七、八割の増収を上げ得るから、窒素質肥料としては實に申分のないものである。先の稻熟病の除防法の所で石灰窒素堆肥を述べたが、此は製するに除糞とか雜草、落葉、塵芥、其他の廢棄物に石灰窒素を二、三%の割合に混入して製造する堆肥が大抵は六、七週間てよく腐熟したものが出来る。尙参考として左に石灰窒素を土壌に施肥してから、アムモニアに分解する迄の順序を圖解して見よう。



六、石灰窒素供給状態

前述の様に我が國に於ける石灰窒素の消費數量は、唯だ増加だけを知つて渡るのを知らない状態にある。一體我が國の生産能力はどれ位あるかと云ふと、科學知識の進歩の御蔭で年に四十萬噸を生産し得る能力を持つ様になつた。勿論指導的立場にあるのは獨逸で其處では實に多量の石灰窒素を製出してゐるが肥效が優秀で加之硫安よりも一割も高く賣れるものであるから外國に對しては硫安を輸出し、自國には石灰窒素を使用してゐる。我が國に於ける過去七箇年間の消費數量を示す次の通りである。

| 年次 | 消費數量 (噸) |
|----------|----------|
| 昭和五、六年 | 一〇六、七五五 |
| 同 六、七年 | 一一一、九一六 |
| 同 七、八年 | 一二九、八八三 |
| 同 八、九年 | 一三九、八五三 |
| 同 九、十年 | 一六七、八五六 |
| 同 十、十一年 | 二〇〇、六七〇 |
| 同 十一、十二年 | 二三三、五九二 |

但し右は七月一日から翌年六月三十日迄を一年度とする、斯う云ふ様に昨年度は二十三萬噸を突破してゐるから、眞の普及状態に達してゐると云ひ得るであらう。然し能力は四十萬噸あるのだから、必要に應じては幾らでも出せる事になる。

本島ではどうかと云ふに、最初に移入したのは昭和二年頃で昭和九年頃迄は、進歩的團體例へば製糖會社方面等へ使用せられたのみで年に僅か七〇〇噸の消費しかなかつた。所が漸次一般方面にも認識せられる様になり、左記の如く昭和九、十年度は一躍二千噸になり、更に昨年度は飛躍的に四千噸を突破するに至つた。

| 年次 | 消費數量 (噸) |
|----------|-----------|
| 昭和九、十年 | 一、九九一、〇三一 |
| 同 十、十一年 | 二、五八八、五一七 |
| 同 十一、十二年 | 四、二四三、〇〇五 |

但し右は八月一日から翌年七月三十一日迄を一年度とする。今迄は製糖會社が大消費消費者であつたが、一般農民は何時迄も眠つてゐないので遂に一般消費は全消費の七割以上を占むるに至つた。各作物別の使用割合を示すと、昨年度は、水稻六三・二%、甘蔗三一・六%、茶三四%、堆肥一〇%、甘藷、果樹其他〇・八%と云ふ状態であつた。内地では水稻作には七、八割も使用されてゐるが、本島も春遠からずであらう。

七、石灰窒素製造法

一體石灰窒素の原料は何で、どう云ふ様にして造るか、一口に云へば空氣中に無意識にある窒素を取らへ

て之に電力を應用して造るもので、今少し實際に就て述べて見よう。

先づ本島の東海岸に無蓋に於る石灰原石を其陸工場へ持つて来て細かく粉砕する。之を無燐炭と交互に電氣爐の中に入れて電氣を通ずると炭化石灰が出来る。炭化石灰は此の儘カーバイドと稱して市場に出してゐるが此れを更に又一種の電氣爐の中に入れて、空氣から得られた窒素を通じつゝ電氣を通せば石灰窒素が出来上る。之を冷却し粉砕して約二割の割合に石油系動物質油を混入したものが所謂油入品石灰窒素である。原理は斯う云ふ様に至つて簡單であるが、實際は大變である。茲で我々が製造法に就て外國に自視してよいのは、炭化石灰に窒素を通じて石灰窒素を造る時に電氣の力を借りて鍾氏一、一〇〇度に熱しなければならぬのを、臺灣電化會社は外部から電熱を加へなくても石灰窒素が出来る様に工夫した事である。此方法は藤田常一氏が考案したもので、炭化石灰と窒素とが化合する時に多量の熱を出すから、之を逆さん様に化合作用に利用する様に工夫したものである。

◆ 東京 便 ◆

十二月一日發行臺灣日々新聞の報する所に依れば、臺灣全島米穀關係團體を打つて一九とし、米穀検査所の肝煎りて臺灣米穀検査協會有生れた相だ。検査協會と云へば少し範圍が狭い様な氣がせぬでもないが、選りきたりながら斯種團體の生まれたことは臺灣米の販路擴張と宣傳の爲めどうしてならぬ團體だけに與

八、結 言

紙面の關係もあるんで以上で稍熱病と石灰窒素の話を打切る心算で居る。其他石灰窒素に就ての詳細は筆者は臺灣農友會發行の臺灣農事報の本年四月號に乗せて置いたから参照せられたい。要するに毎年第一期作に必ず發生する稍熱病に對しては向後之を消滅せしめる様に、種穀を消毒し、刈り取つた稈は庭等に積んで置かずには石灰窒素堆肥の製造に振り充て、栽培法と水田の周圍の狀況を改良し施肥は合理的にして其肥として必ず石灰窒素を施用し之に燃炭と加里とを併用しなければならぬ。又本島に於て日一日と重質化しつゝある石灰窒素を獨り農作物にだけ用ひさせずとも一袋が僅か二圓餘であるから、各家庭の萬花咲き亂れ庭に使用して、一厨其の美陶を増し、各家庭の廢棄物に二三割の割合に混ぜれば此又衛生的である。斯せば我が庭は益々肥沃になるのみならず蚊や蠅等の糞害も出て來ない様になるであらう (完)

作 田 隆

質に堪えない。筆者は昭和四年選米に關係してから此の方機會ある毎に之れを強調し、其の誕生の一日も早からんことを待望して居ただけ悦に堪えない。協會は先づ手始めに石拔米の宣傳をすることとなり經費四千二百有餘圓を投じ、ボスターの作製に取掛ることだが、一年千二百萬袋以上の米を出し、全島

的のボスター一枚なかつた臺灣としては、産地銘柄別産米の認識を深むる爲め地圖入りの發瀾な物を拵へ、一氣に今迄の缺陷を補ふの要があるだらう。

石抜き検査の成績は一般に注視の的となつて居たが案するより産むが易き例の通り何所でも批判がよい。今度こそ悪口を聞かないから成績が宜いに違ひない。口さがない東京の故、若し悪いものがあれば、針小棒大な苦情が出る筈だが、夫れがないから正直に云ふと筆者も助かつた譯だ。丁度十日位前の話だが米を買ひに來た人々が頻りに検査月日を請へて居たから何にかと反問したら十一月以前の米は、割が抜いてないから十一月一日後の米を拾つて居るのだとの答を得た。成る程其の筈だ。十一月一日からの米は督府検査所の強制検査で石抜きがされて居るから夫れを漁つておるのであつて、石のない無難の米を買ひ度い米屋心理が此處に現はれたな……と思はれ、非常に愉快であつた。日刊新聞は勿論、業界新聞全部就中白米商同業組合の機關紙には、筆者が執筆し、検査規則の改正……特に石拔米に付大々的に宣傳し記事を掲げて買つたから一萬軒の白米屋さんには行き涉り、石拔強制検査は大體徹底したと思はれる節があり、夫れ之れを思ひ合せ感愴深きものがある。此の効果のある強制検査がなせ少し早く行はれなかつたであらうか……少なくとも昭和七年の任意石抜き検査が強制であれば宜かつたと今更の感に打たれぬでもないが、時期尚早は諦め、今からでも決して遅くないのであるから、官民一致でウント力を入れて、今日の成績を崩さぬ努力すべきであらう。世に油断大敵と云ふことがある。隨に其の通りだ内地検査所の成績を見ると検査創業の際はヤル人も検査を受ける人も緊張し、且つ勝手が分らぬから一生懸命に腕に擦を掛け、案外成績がよいが三年の中に燃りが展り、人心の弛緩から成績の悪くなるのが常である。臺灣の石抜き其の弊害に陥らぬ機今から其の心し